



學說



日本産木蝨科の一新種

東京高等農林學校動物學教室 農學博士

進士 織平

A New Species of Japanese Psyllidae (Hemip.)

By Orihei Shinji, Tokyo, Japan.

ウコギトガリキジラミ (新稱)

Trizoa ukogi Shinji n. sp.

(雌蟲)體は寧ろ大形に屬し、地色は黄褐色である。頭部は黒色部を有せず、複眼は淡汚赤色。額錐は顯著なれども末端は尖らず。觸角は頭胸兩部の和よりも短く、十節より成り、第一第二の兩節と第一乃至第五節の大部分とは黄色、他部は黒色。第三節は最長片にして第四、第五、第六節の和と約同長、第九、第十の兩節は第一、第二兩節と約同長にして且膨大し、第五節は第四節の約半長である。翅は前後兩對

ともに透明、脈は黄褐、翅長は翅幅の約四倍、翅端は尖つてゐる。徑中肘(合同)脈は中脈柄の二分の一、第一中脈は第二中脈よりも長く、中脈柄は第二中脈の約二倍長、徑脈柄は第一徑脈の約二倍長、第二徑脈は波狀を呈し、翅頂に達せず柄部の約六倍長。肘脈柄は第二肘脈の約三倍長、第一肘脈は第二中脈の約二倍長にして甚しく上(前)方へ彎曲してゐる。二肘脈間と二中脈間とは各一條づゝ點線より成る斑紋が翅縁近くにあり、また、前後兩翅の臀脈と翅縁との間域は黒色に霞んでゐる。肢脚は寧ろ短小にして概して黄色、距毛は黒色である。腹部は黄褐色の地色上に背面には黒色の横走帯がある。雄蟲の握器は黄色にして角質、上(背)辨は下辨よりも幾分長い。

體長 三・五耗 前翅長 四・五耗

蟲癭及生活史

本種はウロギ *Acanthopanax spinosum* D et. B の葉柄の基部に大形の蟲癭を形成し、其内にありて生長する。蟲癭は苞狀乃至長紡錘形にして兩端が細く中部が膨大してゐる。長徑一〇耗以外、短徑四耗以外、表面は綠色にして平滑、壁は厚さ約一耗、内部は一室乃至三室に隔離され、各室は一幼蟲を容れてゐる。幼仔は綠色にして扁平蒼白色の綿絮物を分泌する。蟲癭は六月中旬頃までには殆んど生長し終るものなれども、幼蟲は生長遅々として進まず、十月廿日頃より生長し終りて蟲癭の中央部を裂開して外部に出て羽化して成蟲となり、次で交尾後に雌蟲は芽蕾の基部に産卵するものと、離脱落下する蟲癭内に幼蟲の有様にて越年し、翌年四月下旬―五月に羽化し出る個體とがある。

標型地 岩手縣盛岡市外淺岸村

宿主植物 ウロギ